

# 家族介護者の社会との接点 ー孤立や孤立感の減少を目指してー

伊藤 琴菜

筆者は、日常生活における高齢者を取り巻く課題について関心を持ち、その中でも家族介護者の孤立について着目した。本論文では、家族介護者が社会との接点を持ち続けられ、家族内だけではなく地域の中で支え合っているような取り組みや家族介護者の孤立を防げるような地域の仕組みを考察した。

第1章では、日本の介護の実態を把握するために、第1号保険者（65歳以上）の要介護者、中年層の介護の希望、在宅介護者（同居の家族）についての基本的な情報をまとめた。また、家族介護者の思考の特徴や介護保険制度の概要、在宅介護で利用できる介護サービスなどについてもまとめている。

第2章では、主に高齢の家族介護者の視点から、家族介護者の孤立や孤独（孤立感）についてまとめ、介護殺人の事例から、介護者の孤立が問題とされる根拠を述べた。

第3章では、地域で介護者を支える仕組みについて、市町村における家族介護者支援の取り組み状況や北海道栗山町のケアラー支援事業についてまとめ、ケアについて、文献の中から特に大事だと思った部分を抜粋し、考察を述べた。また、家族介護者支援に必要だと思うことに関して、これまで抽出した課題を基に考察のポイントとなるものを書き出し、8つの考えを評価項目として、北海道栗山町の取り組みを分析した。

第4章では、家族介護者の社会との接点において、意味のあるつながりと家族介護者自身のケアと生き方が大事であることを指摘した。

第5章では、第4章の考察を踏まえて、第一に家族介護者自身もケアされる人であるという認識を持つ必要性、第二に人々が介護の本質的な価値に気づく必要性、この二つが家族介護者支援をするにあたって考えていくべき土台であることを論じた。